

国立大学法人鹿児島大学建設工事等入札監視委員会 議事要旨

| | | |
|--------------------------|---|--|
| 開催日及び場所 | 令和7年12月16日(火) 鹿児島大学 事務局4階 特別会議室 | |
| 委員 | 委員長 芝 浩二郎(独立行政法人国立高等専門学校機構 鹿児島工業高等専門学校 名誉教授) 委員 岩切 至久(岩切公認会計士事務所) 委員 西 選子(弁護士法人鹿児島中央法律事務所) | |
| 審議対象機関 | 国立大学法人鹿児島大学、国立大学法人鹿屋体育大学 | |
| 審議対象期間 | 令和6年10月～令和7年9月 | |
| 抽出案件(合計) | 5件 | (備考) 今回の審議対象期間における、再苦情の申立てはない。 |
| 工事(小計) | 5件 | 令和7年11月の入札監視委員会定例会議(予備会議)にて委員より抽出された案件について個別審議を行った。 その際、説明資料に基づき各発注機関の担当者から説明を行い、質問等への回答を行った。 |
| 一般競争 (政府調達協定対象工事) | 0件 | |
| 一般競争 (政府調達協定対象工事を除く) | 4件 | |
| 公募型希望名及び競争 | 0件 | |
| 通常指名競争 | 0件 | |
| 随意契約 | 1件 | |
| 設計・コンサルティング業務 | 0件 | |
| 委員からの意見・質問、 それに対する回答等 | 意見・質問 | 回 答 |
| | 別紙のとおり | 別紙のとおり |
| 委員会による意見の具申 または勧告の内容 | なし | |

| 意見・質問 | 回答 |
|--|---|
| 【鹿児島大学】 | |
| 1. 建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について | |
| ・特になし | |
| 2. 指名停止等苦情に関する報告 | |
| ・特になし | |
| 3. 予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について (1)鹿児島大学(桜ヶ丘)医科診療棟等とりこわし工事 (一般競争入札:総合評価落札方式(実績評価型)) | |
| ・設定した競争参加資格で、見込みどおりの参加業者数 だったとの理解で良いか。 | ・良い。 |
| ・本工事は建築一式と解体だが、工種によって参加業者を 見込みやすいなどあるか。 | ・本工事は、2つの区分(建築一式と解体)としているため、 参加が見込まれた。 |
| (2)鹿児島大学(郡元)第一体育館改修その他工事 (一般競争入札:総合評価落札方式(実績評価型)) | |
| ・改善策に早期発注を行うとあるが、多数の工事を早期発 注するとなると事務手続きに限界があるのではないか。 | ・仕事量の限界はあるが、業務の状況をみながら可能な限 り早期発注を行うよう努めたい。 |
| (3)鹿児島大学(桜ヶ丘)基幹・環境整備(病院外来ロータリー等)工事 (随契契約方式) | |
| ・改善策に工区分けの検討を行うとあるが、当初公告から 行うのはデメリットがあるか。 | ・工期を分けることによる事務作業の負担増がある。 |
| ・工区分けについて、技術的に難しいことはないか。 | ・技術的に可能であるが、工事業者の切替等でデメリット が生じる。 |
| ・前2回の公告の際に参加資格の点数を下げているが、下 限はあるのか。 | ・下限はないが、工事の品質を確保したうえで、資格点数 を設定する必要がある。 |

| 意見・質問 | 回答 |
|--|---|
| 【鹿屋体育大学】 | |
| 1. 建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について | |
| ・特になし | |
| 2. 指名停止等苦情に関する報告 | |
| ・特になし | |
| 3. 予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について (1)鹿屋体育大学(白水)陸上競技場走路等改修工事 (一般競争入札:最低価格落札方式) | |
| ・競争入札への参加を想定していた業者は、どのような者か。 | ・体育施設の工事を施工している専門業者のほか、土木工事において舗装工事等の施工経験を有する業者を競争参加者として想定していた。 |
| (2)鹿屋体育大学(白水)総合体育館主体育室災害復旧工事(地震災害) (一般競争入札:最低価格落札方式) | |
| ・低入札価格調査で確認した内容のとおり、工事は適切に施工されたか。 | ・適切に施工されたことを確認している。 |
| ・地震発生から入札公告まで期間が空いているのは、やむを得ないことなのか。 | ・復旧額が大きかったことから、予算確保の見通しが立てから着工したためである。 |